

## 山科精器株式会社

取材学生：上野竣也(理工学部 機械システム工学科 1回生)



山科精器株式会社は工作機械、潤滑機器、熱交換器などの製品を扱っており、近年では大学と連携しながら医療機器分野への参入もしている中小企業である。山科精器では独自の自社ブランドの製品も多く、海外進出も視野にいられており、地域未来牽引企業にも選ばれている。今回は理工学部生の目線からの質問を織り交ぜたインタビューを、代表取締役社長の大日陽一郎さんと龍谷大学OBの方2名にさせていただいた。(2018年10月19日取材)

## インタビューを終えて

改めて学生目線の中小企業というものをまとめると

- ・他企業、主に大企業の下請け
- ・依頼を受けて安価に大量生産
- ・大企業が海外進出している昨今では活躍の機会が減り、かといって中小企業自体が海外進出することはない。

こういったイメージがある。企業見学前の私もこういう風に考えていた。しかし、このイメージは一概に合っているとはいえないと思い知らされた。

インタビューさせていただいた山科精器は中小企業ではあるが、その真価は自社ブランドの製品にある。他の企業にはないこの自社ブランド製品は企業の大きな武器となる。

自社ブランドを多く生産できる背景には「フットワークの軽さ」「現場と

の近さ」「設計製造まで関われる」といったいくつもの中小企業ならではの強みがある。

中小企業ができることは大企業にもできるのでは？という意見もあったが実際は、大企業にできないことでも中小企業なら可能という例は多い。大企業は一定の利潤を見込めない製品は製造しないこともある。

また部署ごとの役割が細かく決まっているので発案者が設計製造まで関われないことも多い。

その他にも大企業には大企業なりの「動きつらさ」がある。中小企業はもの作りにおけるこういった「動きつらさ」に縛られない。そのおかげで自由に設計製造ができ、他に誇れる自社ブランドがうみだせるのである。



## &lt;メッセージ&gt;

山科精器は技術者が中心、中核には龍谷大学卒業生も多いので是非就職の選択肢に考えてほしい。また、山科精器以外の企業を考えるにしてもその企業の「自社ブランド」の存在を知ってから企業選びをしてもらいたい。

代表取締役社長  
大日陽一郎さん

## 会社概要

■住所(本社)	〒520-3001 滋賀県栗東市東坂525	■設立年月	1939(昭和14)年7月
■企業HP	<a href="http://www.yasec.co.jp/">http://www.yasec.co.jp/</a>	■代表者名	代表取締役社長 大日 陽一郎
■資本金 ■従業員数	資本金：1億円 従業員数：129名	■業種	製造業